

手俳人の小野あらた氏が書いてい
んなに老成しなくてもいいと思う
我が庭の蟻、大きい蟻も小さな蟻
が、互いに交わることはなく、そ
我が道をすれ違っている。
命の方が気にかかる。
翅を欠き大いなる死を急ぐ蟻
作者の佐藤鬼房は自身を蟻と見据え
て、死を急いだ。蟻も人間も大いなる存
在である。
(「駒草」主宰、俳人)

鈴木しげを
「鶴」主宰。
秋「妻の母ハ
鳴門の海のもの
依光陽子句集
俳句賞の受賞
「ふ、は鳥にな
に未だとどまる

☆は共選作。入選作
し、記事やSNSで引用
表の自作のみ、二重投
ります。郵便での投稿

川野里子選

カーナビで迷って来たと笑う友病棟の椅子今
日はやわらか (西海市) 山本 裕幸
腹ペコの恐竜のごと夏が来た数多の恋を喰っ
て去るのか (尾道市) 山崎 尚美
夕張のメロン農家の生まれとふ調律師の手に
夕闇迫る (富士市) 村松 敦規
ひとりきりエンゼルケアを待つ廊下背中丸め
た自分が見える (水俣市) 岩崎 真哉
肺に影見つかりし夫は帰り来て数独の続き静
かにしてゐる (岡山市) 山本 昌子
向かい家の長男芝刈り機を出して己を調整し
ている日曜 (アメリカ) ダンバー悦子
不穩さに日常が負けないように今年も梅とら
ツキヨウ漬ける (半田市) 森下 久子
男らがスーツでならび発表す「女性便器の数
ガイドライン」 (大和郡山市) 四方 護
「人間のこころはアナログ」とう葉書そうた
そうだと返事の葉書 (国立市) 加藤 正文
エプロンと制帽返して明日から無職のわたし
八十歳です (市川市) 山崎 蓉子

【評】一首目、迷いつつ見舞いに來た友が和らげる病院の空気。二首目、猛暑だが恐竜だと思えば心も弾む。恋は美味しそうだ。三首目、繊細にメロンの手入れをした手が調律をする。四首目、死者への処置の時間。心を遠くして自分を眺める自分。

佐佐木幸綱選

車窓から潮の匂いが流れきて視界にひろがる
枯木灘見ゆ (東大阪市) 池中 健一
一度でもその瞬間に居合わせたい岩合さんが
猫を撮る場所 (柏市) 石戸 俊和
アスファルト道路にあまたの泥乾き田植え終
えたる里のしずけさ (太田市) 川野 公子
ほっとした父の様子が気に食わぬ母をホーム
に見送った午後 (久留米市) 春日 登
捕獲熊廃棄物のごと扱われ言うに言われぬ哀
しみ誘う (京都府) 伊藤 壽子
山頂からついて来ちゃった尺取虫道の駅にて
さよならをする (栃木県) 岡田 智子
何気なく防災土のう五十枚大雨警報出る前に
買う (千葉県) 渡部 健
抗がん剤治療をやめる妹の新芽のやうなまぶ
しい決意 (東京都) 原 ナオ
雌雄の名異なるトンボ飛び始む雄はシオカラ
雌はムギワラ (岡山市) 岩藤由美子
曾野綾子、佐藤愛子も亡くなりて世の中急に
色あせて見ゆ (川崎市) 宇藤 順子

【評】第一首、枯木灘は紀伊半島の南端に広がるリアス式海岸。中上健次の長編